

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

◎注意事項をよくお読み下さい



〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%程度、国債買入れペース年間80兆円めどは変更なし
- ◆ フォワードガイダンスの基準を明確化。物価安定のモメンタム（勢い）を分析し、現状では、政策金利は現行又はそれを下回る水準で推移すると想定
- ◆ 金融市場の反応は限定的となっている

✓ 日本銀行は10月31日の金融政策決定会合にて、「**長短金利操作付き量的・質的金融緩和**」の継続を決定した。

✓ 長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを行う。買入れ額は保有残高の増加額年間約80兆円をめどとして弾力的に実施。金利は、経済・物価情勢に応じて上下にある程度変動しうるものとした。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで増加。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。買入額は、市場の状況に応じて、上下に変動しうるものとした。

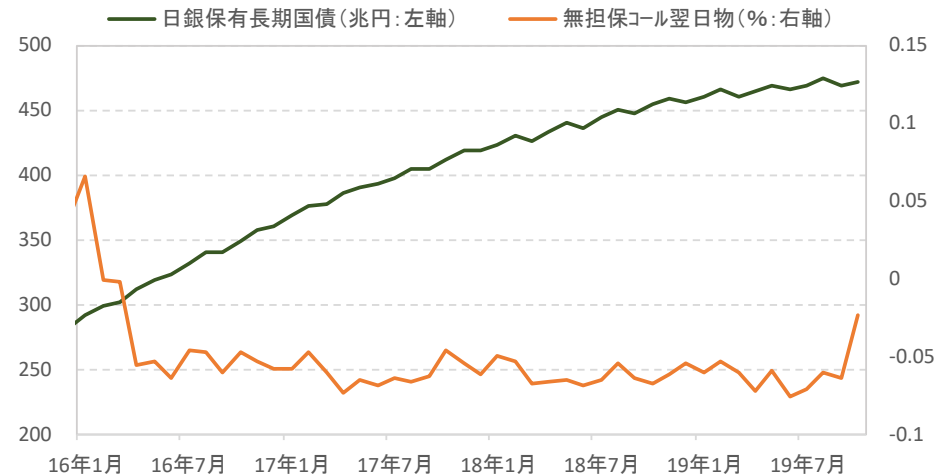
✓ **今回、フォワードガイダンスの基準を明確化。**

✓ **前回の会合で次回会合で経済・物価情勢を点検するとしたことを踏まえ、『「物価安定の目標」に向けたモメンタムの評価』を実施。**モメンタムが損なわれる恐れについて、「一段と高まる状況ではないものの、引き続き、注意が必要な情勢にある」とした。

✓ このモメンタムが損なわれる恐れに注意が必要な間は、「**現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定**」とした。ECB理事会と同じスタンスで追加金融緩和の手段として利下げを明示。FRBやECBが相次いで利下げを実施するなかで、日銀としても何かあれば躊躇なく行動することを示した格好。

✓ **金融市場はの反応は限定的。結果発表後に若干円高が進行した程度にとどまっている。**

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2019-2021年度の政策委員の大勢見通し（10月時点）】

	実質GDP		消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げ・ 教育無償化政策の 影響を除くケース
(対前年度比、%)				
2019年度	+0.6% ~ +0.7%		+0.6% ~ +0.8%	+0.4% ~ +0.6%
7月時点の見通し	< +0.6% >		< +0.7% >	< +0.5% >
2020年度	+0.6% ~ +0.9%		+0.8% ~ +1.2%	+0.7% ~ +1.1%
7月時点の見通し	< +0.7% >		< +1.1% >	< +1.0% >
2021年度	+0.9% ~ +1.2%		+1.2% ~ +1.7%	+1.2% ~ +1.7%
7月時点の見通し	< +1.0% >		< +1.5% >	< +1.6% >

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。